



地震を防ぐ

3・4年

5年

6年

身近な
くらし編

第1章
わたしたちのまち

第2章
ようす
と人々の

第3章
かわりの
うつつり

第4章
安心して
すくらす

第5章
ために
すくらす

第6章
くわいたく
とまちづ

第7章
日本の
諸地域

1 地震の被害

- 日本では今までに、大きな地震が多くの地域で発生している。
- **阪神・淡路大震災**では火災や建物のくずれが、**東日本大震災**では津波が深刻な被害をもたらした。
- 地震のゆれで、家具がたおれたり、建物がくずれたりする。
- ストーブやコンロからの引火やいたんだ電気コードからの漏電などで火災が発生する。
- 津波が発生する。
- 地すべり・がけくずれが起きる。**液状化**①が起きる。



▲ 阪神・淡路大震災のようす
(読売新聞／アフロ提供)



▲ 東日本大震災のようす
(AP／アフロ提供)

2 家庭での備え

① 身を守る方法

- 地震が起きたら、**テーブルや机の下にかくれ、身の安全を確保する**。外にいるときは、電柱やブロック塀がたおれたり、くずれたりしてくるかもしれないので、そばにいたらはなれる。
- 火事にならないように、ゆれがおさまったら火のものを消す。
- 強いゆれによって建物がゆがみ、窓やドアが開かなくなることがある。閉じ込められないよう、窓やドアを開け、出口を確保する。
- 強い地震が起きたときは、**建物がくずれたり津波が来たりするおそれがあるので、外や高いところに避難する**。

用語

① 液状化

地面が、地震の振動によって液体のような現象。建物や道路がくずれるなどの被害が出る。

② 家庭での工夫

● 地震が起きてもあわてずに対処できるよう

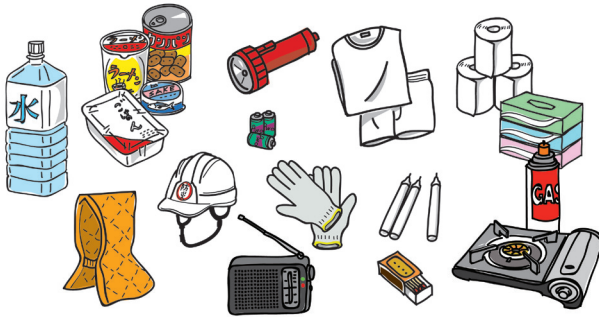
に、自分にできることを考えよう。

- 家具がたおれないように固定したり、開き戸が勝手に開かないように留め金をつけたりする。
- ガラスが割れないように、強化ガラスに替えたり、飛散防止フィルム①をはったりする。



▲ 飛散防止フィルムがはられたガラス(アイリスオーヤマ株式会社提供)

- 家族と話し合い、避難場所や持っていくものの分担を決めておく。
- 火の始末を忘れずにする。
- 水道や電気が止まっても生活できるように、食べものや生活必需品を備えておく。



▲ 日ごろから備えておくものの例

③ 学校での備え

- 学校は、地域の避難所に指定されていることが多く、災害に対してさまざまな備えがある。
- 防災倉庫②が置かれており、中にはご飯を炊く道具や毛布などが保管されている。



▲ 固定された家具

用語

① 飛散防止フィルム

窓などのガラスにはりつけるフィルムで、割れたときに破片が飛び散ることを防ぐ。大きな地震が起きたときは、地震の衝撃で割れたガラスの破片が体に直接当たったり、地面に落ちた破片をふんだりして大きな怪我をする危険がある。

用語

② 防災倉庫

防災の備えとしてさまざまな物資が保管されている倉庫。国や地方自治体などによって学校や公園など避難場所に設置されている。

- 保存期間が長い災害用の食料や飲料をたくわえている保管室がある。
- 強い地震にもたえられるように、校舎に鉄筋などでできた補強材をつける工事がほどこされている。
- 日頃から避難訓練を実施し、実際に災害が起きたときに生徒が冷静に避難できるようにしている。



▲ 補強材をとりつけた校舎
(読売新聞／アフロ提供)

4 行政や地域の備え

- 地震などの災害に備えて、行政や地域ではさまざまな取り組みが行われている。

① 防災計画

- 災害が起きたときに、どのように対応するかを各地域で決めたものを**防災計画**という。あらかじめ対応を決めておくことで、すばやく行動できる。
- 災害の種類ごとに、救助や救援物資の運び方、市民の避難場所などが定められている。

② 防災訓練

- 地域住民が、災害が起きたときに備えて訓練を行う。
- 消火器の使い方や、バケツリレーの方法、**AED**の使い方などを訓練する。

③ 避難行動計画

- 災害時に地域の人々がどのような行動をとればよいのかを、具体的に示したものを**避難行動計画**という。市や区が配布する。



▲ 防災訓練のようす



① 防災訓練

防災訓練メニューには、避難・避難誘導、消火器、バケツリレー、救出・救助、災害時要援護者のケア、応急手当、情報伝達、炊き出しなどがある。

用語

② AED

心肺停止の人に対して、電気ショックを与える医療機器。交通機関や公共施設、人通りの多い場所などに設置されている。



▲ AED

3・4年

5年

6年

身近な
くらしの
編

第1章
わたしたちのまち

第2章
働く人々の
ようす

第3章
くらしの
かわり

第4章
安心して
くらす

第5章
すこやかに
くらす

第6章
くらしの
かわり

第7章
日本の
地域

④ 自主防災組織

- 「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えのもと、地域の住民が自主的に結成した組織のことを**自主防災組織**①という。
- 実際に災害が起きたとき、自主防災組織は**情報伝達**や**救護**などのさまざまな活動を同時に行う必要がある。そのため、**役割ごとに班で分かれ、活動する**のが一般的である。

▼ 自主防災組織の主な活動



▲ 衛生班



▲ 消火班



▲ 避難誘導班



▲ 炊き出し班



▲ 情報班



▲ 救助班

⑤ その他の行政の取り組み

- 行政では、地震の後の津波に備えて、**津波避難ビル**②の指定や**海拔**③を示す標識の設置を行っている。
- **避難の方法や防災情報をパンフレットで配布したり、メールなどを使って住民に伝えたりしている。**



▲ 津波避難ビルと海拔の標識 (渡辺広史/アフロ提供)

用語

② 津波避難ビル

津波が起きたとき、避難できる建物。建物の指定条件は、地震に耐えられる、想定される津波の高さより高い、24時間避難が可能であることなど。

用語

③ 海拔

海面を基準とした、山や陸地の高さ。海拔が低いところほど海水が多く流れこむので注意が必要。